

田中研新聞

第32号

2016年
4月10日発行

2016年4月10日号

甲南大学知能情報学部田中研研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長・岡田 航大 (M1)
編集委員・橋本 渉 (B4)

新年度スタート

研究室メンバーの大学生活1

4月号、5月号の2回に分けて研究室のメンバーそれぞれに自分の事や、春休みの出来事の記事を書いてもらっている。今回は岡田、伊東、金澤、島津の4人に、次回は残りの4人の記事を掲載する。

岡田航大

普段、大学内の生協でバイトをしている私ですが、実際何をやっているのか触れた事がなかったので、今回は記事にさせて頂きま

私がやっていることは大きく分けて二つあり、一つはファミリーマート関係。こちらは、普通にレジに入ることや、学生のシフト調整プログラムを提供したりしています。もう一つはサポート関係で、こちらは相当幅広く行っています。普段は先生方からセッティング依頼などがあり、研究室などでルーターの設定やパソコンの設定をおこなったり、壊れたパソコンの状態確認や、リカバリ作業をおこなったりしてしています。先生方の多くはプリンタの設定や、オフィス導入などがメインの為、それくらいであればあまり問題なくスムーズに作業が進むのですが、知能情報の先生や、Macのセッティングの依頼は不安の方が大きいです。基本的にはパソコンに精通している先生方からのサポート依頼というのは、本当に難しいものが多く、私は事前準備をしつかりしないとうまくサポートをす



ることができません。Macの方は私が普段使わないOSなので、設定画面がどこにあるのから始まってしまいます。もう少し安ければMacのパソコンを買って勉強しようと考えているものは、どう考えてもそんな軽い気持ちでは手がでない金額なので、今のところは断念しています。また、毎年新学期が近くなると、新学期行事と呼ばれる行事があり、新入生・保護者説明会や、セッティング講座、オフィスの導入講座、パソコン講座などのサポートや、時には講師をおこなってききました。中でも新入生・保護者説明会は事前準備など含めると非常にきつい業務です。新入生・保護者説明会では新入生約200名、保護者約150名の350名近くの前で大学生活のパソコン利用

についてのプレゼンを甲友会館の壇上にて10分の持ち時間の中で行います。以前は商品の説明が多かったのですが、今年は大成功だったと言えます。このように、サポートのバイトでは営業のような仕事やPCサポートや、セッティング補助やルーター設定などの作業を行っていき、バイトをやる前と比べると、比較にならないくらいにパソコンに関する知識や、プレゼンの能力が身に付きました。今年の説明会では全国大学生協の目に留まったようで、そちらの方でも少し取り上げて頂けました。そんなことをしていると、院にまで進んで技術職を目指しているものの、本当は私は営業の方が向いているんじゃないかという考えになつてくるのが、最近の密かな悩みです。(岡田航大)

伊東一樹

4回生になりました伊東一樹です。僕の最近の日常はほとんど就職活動です。毎日電車に揺られ大阪や三宮などに説明会を聞きに行っています。午前中の説明会は大丈夫なのですが、午後からの説明会特には2時頃からの説明会は睡眠との戦いです(笑)寝てしまうことも度々ありその時は反省しています。就職活動は嫌なものという印象が強かったのですが、実際にやってみるとそうでもなく、案外楽しいものです。様々な企業を回って説明会

聞いているうちに自分の将来像が浮かんでくるようになっていきました。また企業に足を運んで実際の職場の雰囲気やどんなことをしているのか自分の目で見たりするのも就活の楽しさのひとつではないでしょうか。会社で働くと言っても漠然としたイメージしかなかったのですが、それを見られるのは本当に良い経験です。また自分という存在と真剣に向かい合える機会ついでいうのはこの先何度もあるわけではないと思うので、今しっかりと自分の事を理解し悔いのない就職活動にしたいです。話は変わりますが最近卒業式がありました。先輩が卒業するというのは非常に寂しいものです。この日は同好会の卒コンというイベントがあり先輩一人ひとりの思い出やエピソードを聞きととても感動しました。先輩たちと朝まで飲みながら今までの思い出を語りあかしました。この場をお借りして改めてご卒業おめでとございます。来年は自分がこの立場になると思うとこの大学生活あつという間違ったなと思います。卒業式といえば卒業式用に

KOROのプログラムを作りました。自分が担当した部分は耳や舌を動かすサーボモーターの部分を担当したのですが、プログラムのエラーや動作が思い通りにいかなかったりひとつの物を作り上げる大変さを知ることができました。先輩方の協力もあり無事に完成しました。卒業式の日実際に動いているKOROの姿を見て、さらにそのKOROと写真を撮っている卒業生を見てとても嬉しい気持ちになりました。これから卒業研究が本格的に始まっていくと思いますが、今回の経験を糧にして一生の思い出に残る卒業研究にしたいと思っています。そのためにはまず就職活動を終わらせないとはいけませんね(笑)今年就職活動に卒業研究、また同好会の活動とともに充実した一年になりました。人生最後の学生生活社会人としての準備とともに悔いの残らないよう全力で楽しみたいと思います!! (伊東一樹)

金澤陽介

今年度はこれまでのような講義や部活動中心の生活とは違い、就職活動に迫られる毎日となっています。就職活動では様々な会社の方とお話しをさせていただく機会が多く、自分の価値観や考え方が大きく変わっています。これほど何かに没頭するというのは今まででの人生の中でもあまりなく、この経験はこれからの将来役に立つものだと思います。これまでの大学生活を振り返ってみると、やはり一番思い出深いのはユースホステリングクラブの活動でした。このクラブはキャンプや登山といったアウトドアの活動を中心に行っています。キャンプでキャンプファイヤーをしていく中

で、ファイヤーシートという特技が身に付きました。このファイヤーシートというのは簡単に言うと、両手に棒を持ち、棒の先に火をつけてグルグルと棒を回していくパフォーマンスです。これをずっと練習して手に擦り傷を負いながら練習したことが思い出深いです。大学祭ではこれまでの活動で行った山や海の模型を展示し、見る側に分かりやすくその自然を紹介することによって、自然に興味をもってもらうことができました。この結果、学長杯という名誉ある賞を受賞したことも私にとってとても思い出深い出来事でした。今年就職活動だけではなく卒業研究も自分にとって大きく関わってきます。正直三回生のときはプログラミングにあまりついていけなかったと思います。今年にはわからないことはまず自分で調べる癖をつけ、効率よく取り組んでいきたいと思っています。与えられた課題をこなしていくだけでなく、自分で問題を見つけ、その問題にどう取り組んでいくのかを自分で考える必要があります。今年の研究室はメンバーに恵まれているので、田中先生や院生の方々、同好生に積極的に呼びかけてアドバイスをもらい、自分の成長につなげていきたいと思っています。今年もゼミの方には迷惑をかけることが多いとは思いますが、よろしくお願ひします!! (金澤陽介)



研究室メンバーの大学生活2

島津直道

角島・九州ツーリング
島津直道は3月2日から10日間、バイク四台で九州に行きました。バイクは(写真手前から)Z1000(Kawasaki)、Ninja250(Kawasaki)、DR-Z400(Suzuki)、ZR600(Kawasaki)です。初日は、広島まで走り倉敷を観光しました。倉敷川では船に乗ることができ、倉敷川から見た景色を楽しむことができました。2日目・事件が起きました。広島県を北上り日本海沿いを走る予定でしたが、北に上る途中の山道が路面凍結しており、Z1000乗りの友達がスリップしてしまい、レッカーを呼ぶことになりました。来た道に戻るだけでなく、さらに南にあるバイクショップに運び込まれ、修理しただけでその日は終わってしまいました。3日目は広島県から山口県に移動するためだけに費やしたため高速道路の記憶しかございません。4日目、ついに角島大橋に到着！予定は大幅に遅れましたがようやくこの絶景にお目にかかることができました！平日だというのにたくさん観光客が来ており大変賑わっていました。写真でしか見ることができなかった風景を実際に見ることができ、感動しました。角島出てからは、いよいよ九州に上陸です。関門トンネルを通り、門司港へ。名物の焼きカレーはやはり美味でした。5日目は阿蘇山に登りました。山道をバイクで走るのはやはり楽しいです。阿蘇では名物の赤牛食べました。6日目は宮崎県の高千穂峠をボートに乗って観光しました。ボートの利用者が多かったので移動するのに苦労しましたが、とても綺麗な景色を楽しめました。この夜だけは宿に泊ま



1.7kmでした。今まで一番バイクに乗った10日間でした。(島津直道)

田中先生書評

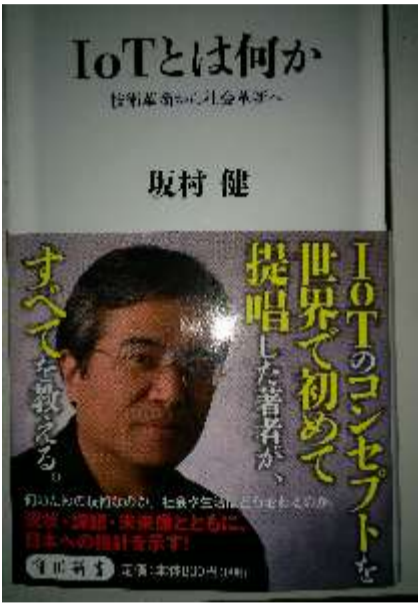
坂村健著

「IoTとは何か 技術革新から社会革新へ」

角川新書

ひと昔前ならユビキタス、その前ならTRONで有名だった、東大の坂村健教授の最新刊である。IoTとは、Internet of Thingsの略であることはよく知られているが、坂村氏の考えるIoTというのが、単に、ものをネットワーク化するだけでなく、IPアドレスのように、uniqueという個別のコードを充てるというものであることを知った。坂村氏のTRONおよびユビキタスは、すべてIoTに密接につながっていることから、IoTの30年来の研究者と自称する。坂村氏は、日本の産業社会の特質を「ギョランテイ志向」と特徴づける。動くことが保障されなければ製品にできないというギョランテイ志向の日本型ビジネスモデルが、「閉じたIoT」には良くても、「オープンIoT」には向かないという点が災いしている。これは、インターネットもベストエフォートで動くものであつて、それを

にしている点が、今までの商品のように、自社の製品だけで通じるコードとは異なり、どこの製品であるかが、それが読めて、それに関する情報が得られることを目指している。そのように、日本にとってなかなか推進が困難なIoTではあるが、IoTが食品の生産から販売までのトレーサビリティを実現している点は、旅客機のメンテナンス履歴であったり、テナンス履歴であったり、そういうものが、IoTにより容易になること、メリットは大きい。IoTが、いろいろなものに革新的な変化をもたらすことは想像に難くない。しかし、昔できた法律に書かれていないことは「ダメ」というのが欧米のルールでは、新しいことの導入の困難さが違う。坂村氏は、社会的改革の提唱を、技術を伴いながら行っており、偉大な真の科学者であると思つた。なかなか難しい本ではあるが、将来の情報の専門家を目指す人には一読を勧める。(田中雅博)



卒業式を終えて

新4回生がプログラム披露

3月25日に卒業式があり、新しいKoroになったから携わってきたメンバーの多くが卒業し、それぞれの別々の進路に進み始めた。個人的には研究室に同期がいなくなるのが非常に寂しい。

卒業式の日には何度か当新聞でも触れている、卒業式のプログラムを新4回生が作成し、その披露を行った。記念撮影モードという名前の通りに、Koroと一緒に写真を撮ると、コントローラーにて撮影前に指令を送ると、Koroが一定の動作や音声を流して、ポーズをとってくれるものとなっている。当初は図書館内で行う予定であったが、どうしても利用者が少ないと考えられた為、当日になって屋外での撮影に変更した。私も利用者側として様子を何度か見ていた。

卒業式を終えていよいよ新年度がスタートし、Koroも2年目へと突入するので今後は真価が問われることとなる。屋内、屋外共に不安な要素も多くあるが、まずは7月のオープンキャンパスに向けて、Koroの新機能の充実ができるように研究室メンバー一同で頑張っていこうと思う。(岡田航大)



研究室対外予定

3月23日〜4月21日 グラフフロント大阪で来場者カウンタとラジオ体操探点システムのデモ▼5月7日(芦屋中央公園)でラジオ体操探点システムのデモ▼5月25日〜27日 岡田君がSCI'16(京都テルサ)で論文発表▼6月9日〜11日 岡田君がロボテイクス・メカトロニクス講演会2016 in Yokohama(パシフィコ横浜)で論文発表

編集後記

3月〜4月は卒業式や入学式、オリエンテーションと何かとドタバタしている日々を過ごしています。そのまま進学した身なので新生活、とは言いが辛いですが変わったことも多く、退屈することのない充実の日々を過ごしています。じゃあ大学院になって何が一番変わったかと聞かれると、一番はTAが増えたことですね。バイトで似たような経験はあったものの、やはり講義のTAとなると相当事前準備していかないとけないので、ある意味自分の授業より大変です。また、TAをしていると、この子は全然聞いてないなどというのがよくわかるのが今は非常に面白いです。面白い事に基本的に質問してくる学生は二分されていて、前の方でそれなりに難しい質問をしてくる学生と、後ろの方で恐らく聞き逃したことを聞いてくる学生です。中間付近の学生はほとんどが黙々と課題をこなしています。情報学部の学生といっても思った以上にパソコンの操作が苦手なようで、この先大丈夫かと不安に思いました。(岡田航大)